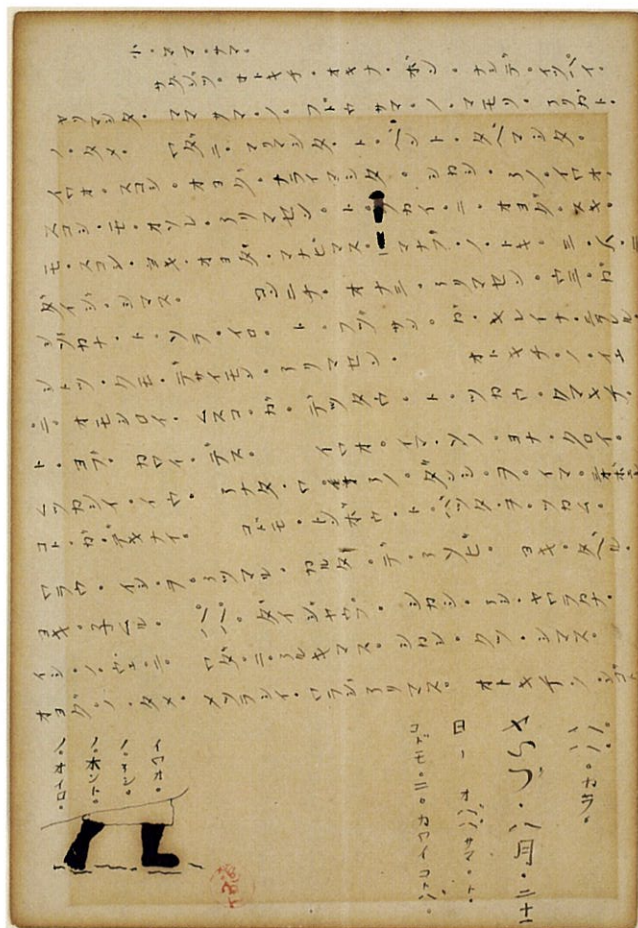


やまとの名品 天理図書館



こいずみ あてしよかん
小泉セツ宛書簡

小泉八雲

明治37年(1904)8月21日付

縦20.2cm 横13.9cm

「サクジツ・オトキチ・オキナ
・ボン・ナシデ・イツパイ・ヤ
リマシタ・ママサマ・ノ・フド
ウサマ・ノ・マモリ・アリガト
・ノ・タメ」(昨日乙吉が大きな
盆に一杯梨をくれました。ママ
さまからの不動様のお護符の御
礼として。)

この書簡は、「耳なし芳一
(The Story of Mimi-nashi-
Hōichi)」雪女(Yuki-Onna)」な
どの怪談で知られる小泉八雲
(ラフカディオ・ハーン 一八
五〇〜一九〇四)が、避暑地の
焼津から東京で留守番をしてい
たセツ夫人に宛てたものです。

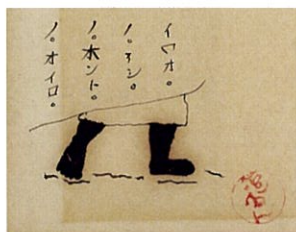
書き出しの宛名は西洋風に
「小(可愛い)・ママ・サマ」と

あり、のちに「ヘル
ンさん言葉」と呼ば
れる夫婦の間だけで
通じた日本語で綴ら
れています。

魚商人山口乙吉か
らのお礼の品の報告
や、海岸で次男の巖に水泳を教
えたこと、海は静かで空には雲

一つなく富士山が綺麗に見られ
ること。子供たちは遊び、笑い、
よく食べよく眠ることなどを知
らせ、巖の真つ黒に日焼けした
草履ばきの足のユーモラスなイ
ラストに「イワオ・ノ・アシ・
ノ・ホント・ノ・オイロ」とい
う説明が添えられています。

「焼津にて (At Yaidzu)」乙吉



のだるま (Otokichi's
Daruma)」など数々の
名作が生まれた焼津で、
晩年のハーンは毎年の
ように夏を過ごしまし
た。水泳に適した駿河
湾の深い海、乙吉をは

じめとする焼津の善良な人々や
その町並みが大変気に入ったと
いうことです。

焼津から帰京して約一カ月後
に、ハーンはこの世を去りまし
た。この最後の夏の書簡は、妻
や子、家族、知人達との愛情あ
ふれるやりとりが感じられる一
通となっています。「邊るん」の
印記あり。

(天理図書館 福田由紀子)

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

○開館88周年記念展「小泉八雲 ラフカディオ・ハーン」

10月19日(金)~11月11日(日)午前9時~午後3時半 入場無料

○記念講演:小泉凡氏「小泉八雲-開かれた精神(オープン・マインド)の航跡を辿る-」
10月20日(土)午後2時~